

# 県内経済概況

2013年9月

2013年10月9日

株式会社 **滋賀銀行**  
株式会社 しがぎん経済文化センター

《ご参考》

県内景気の基調判断の推移

【県内景気天気図】		12.1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13.1	2	3	4	5	6	7	8	9	
現在の景気	●=前月比上昇・好転 ▲=前月比横ばい ×=前月比下降・悪化	▲	▲	●	●	●	▲	▲	▲	▲	×	×	▲	▲	●	●	▲	●	▲	▲	▲	▲	
3か月後の景気		▲	●	●	▲	▲	▲	▲	▲	×	×	×	▲	▲	●	●	●	●	▲	▲	▲	▲	●
生産活動		×	×	●	×	●	▲	×	▲	×	×	×	×	×	×	●	●	×	●	▲	●	×	●
個人消費		▲	▲	●	●	×	▲	▲	▲	▲	×	×	●	●	×	▲	▲	▲	×	●	×	×	×
民間設備投資		●	●	×	▲	●	×	●	●	×	●	×	×	×	×	●	●	×	●	●	×	×	×
住宅投資		×	●	●	×	●	●	×	×	●	●	×	●	×	×	●	●	●	●	×	●	×	×
公共投資		×	●	●	×	●	●	●	●	×	×	●	×	●	×	▲	●	●	●	×	●	●	●
雇用情勢		▲	▲	▲	▲	▲	▲	×	×	▲	×	×	▲	▲	▲	●	▲	●	●	●	●	●	●

【県内主要経済指標】		12.1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13.1	2	3	4	5	6	7	8	9
鉱工業生産指数	季調済・前月比	●	×	●	×	×	●	×	×	×	×	×	●	●	×	●	●	●	×	●		
可処分所得	前年比	×	×	×	×	●	●	●	●	●	●	●	×	×	×	×	●	●	×	●	×	
家計消費支出	前年比	×	×	×	×	×	●	●	×	●	●	●	×	●	●	●	●	●	●	●	×	
大型小売店販売額	店舗調整前・前年比	×	●	●	×	×	×	×	●	×	×	●	●	×	×	×	×	×	●	×	×	
乗用車新車登録台数	2車種計・前年比	●	●	●	●	●	●	●	●	×	×	×	×	×	×	×	●	×	×	×	×	
民間非居住建築物床面積	3業用計・前年比	●	×	●	●	×	●	●	×	●	×	×	×	●	●	×	●	●	×	×	×	
新設住宅着工戸数	前年比	●	●	×	●	●	×	×	●	●	×	●	×	×	●	●	●	●	×	●	×	
公共工事請負金額	前年比	●	●	×	●	●	●	●	×	×	●	×	●	×	×	●	●	●	×	●	●	
新規求人倍率	季調済・前月比	×	●	×	●	▲	●	×	●	×	×	●	●	×	●	●	●	×	▲	●	×	
有効求人倍率	季調済・前月比	●	●	▲	●	●	×	▲	●	▲	▲	▲	●	●	●	▲	●	●	●	●	●	▲
常用雇用指数	全産業・前年比	▲	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●	●	●	●	●	●		
所定外労働時間指数	製造業・前年比	×	×	●	●	●	×	●	●	×	×	●	●	●	×	×	●	●	●	●		
常用労働者の賃金指数	名目・前年比	●	×	●	●	●	●	×	×	×	×	●	×	●	×	▲	×	●	●	●		
企業倒産	負債総額・前年比(逆)	●	●	●	●	×	×	×	●	●	×	×	●	×	●	●	×	×	●	●	●	×

●=前年比・前月比プラス、▲=同横ばい、×=同マイナス。ただし、「企業倒産」は逆表示。

《使用データについての注意事項》

・今月はありません。

## 1. 概況…持ち直しの動きはみられるものの、力強さに欠けた状態

### 県内景気の現状

県内製造業の生産活動の現状を鉱工業生産指数で見ると、鉄鋼や一般機械、繊維などは引き続き低水準にあるものの、電気機械や精密機械、窯業・土石、化学などの高水準が続き、前月比では精密機械や化学などが大幅の上昇となったため、原指数は前月に続きマイナスだが、季節調整済指数は再びプラスとなった。

需要面では、大型店売上高の中の飲食料品と家庭用品、3ナンバーの乗用車新車登録台数と軽乗用車の販売台数、サービス業用の民間非居住用建築着工床面積、持家の新設住宅着工戸数、公共工事の請負件数と金額などは前年を上回り堅調に推移している。しかし、公共工事を除くほとんどの需要項目が前年比マイナスとなり伸び悩んでいる。なかでも、大型店売上高や民間非居住用建築着工床面積の全体の動きは力強さのない弱含みでの推移となっている。

このような状況下、雇用情勢をみると、新規求人倍率は高水準を維持し、有効求人倍率も前月と同じ0.81倍となり、また、常用雇用指数は6か月連続のプラス、製造業の所定外労働時間指数も4か月連続のプラスとなり、改善の方向がみられる。

これらの状況をまとめると、県内景気の現状は、製造業の生産活動や需要の一部で前向きな動きが続いているものの、ほとんどの需要項目で伸び悩んでいるため、引き続き持ち直しの動きはみられるものの、力強さに欠けた状態が続いているとみられる。

### 今後の景気動向

県内製造業の生産活動については、消費税率引き上げ前の駆け込み需要に伴う増産の動きが住宅関連や民間設備関連をはじめ、自動車や家電製品といった大型耐久消費財関連などで出てくるとみられるため、全体的には堅調に推移するものと思われる。

需要面では、個人消費については、上記の駆け込み需要によって乗用車や家電機器などの大型耐久消費財の販売が上向きはじめるとみられるが、家計所得の動向や円安に伴う値上げ、光熱費の上昇による節約志向の動きといった懸念材料があるため、弱含みの状態が続くものと思われる。また、民間設備や住宅着工などの投資関連では、上記の駆け込み需要が今しばらくは続くものの、年度末にかけて需要の減退とともに減速感がでてくると考えられる。

したがって、今後の県内景気は、生産活動面で堅調な動きが出てこようが、需要面での動きが弱含みにとどまるため、全体的には回復に向けた動きがみられるようになるものの、せい弱なものにとどまると思われる。

## 生産…「鉱工業生産指数」の季調済指数は再びプラス

2013年7月の県内製造業の生産状況は、鉱工業生産指数(2005年=100)の「原指数」が107.5、前年同月比-1.6%と、前月に続き前年を下回ったものの、「季節調整済指数」は99.2、前月比+1.2%で、再びプラスとなった。しかし、鉱工業全体の季調済指数の3か月移動平均値(6月)は99.9、前月比-0.3%で、前月に続きマイナスとなっている。

業種別(中分類)に季調済指数の水準をみると、「鉄鋼」や「一般機械」「繊維」「その他」などは低いものの、「電気機械」や「精密機械」「窯業・土石」「化学」などは高水準が続いている。また、前月と比べると、「電気機械」や「繊維」などは大幅に低下したが、「鉄鋼」や「精密機械」「化学」などは大幅の上昇となった。

鉱工業の「出荷指数」と「在庫指数(製品在庫)」を前年比でみると、出荷は14か月連続で前年を下回っているものの、マイナス幅は縮小しており(原指数113.8、前年同月比-0.6%)、在庫は9か月連続のマイナスとなっているため(同102.6、同-3.8%)、在庫循環図では“在庫調整局面”にあるものの、“回復局面”に近づいている。今後の動向が注目される。

## 個人消費…普通乗用車の「新車登録台数」は4か月ぶりのプラス

8月の「消費者物価指数(生鮮食品を除く総合)(大津市)(2010年=100)」は100.0、前年同月比+0.8%、前月比+0.3%となり、とくに前年比では4か月連続かつ大幅のプラスとなっている。これは、エネルギー(電気代、ガス、灯油、ガソリン)が電気代の大幅値上げにより、大きく上昇したため(前年同月比+10.5%、前月比+1.4%)とみられる。なお、食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合(いわゆる「コアコア指数」)でみると、前年同月比0.0%、前月比-0.1%で、落ち着いた動きが続いている。「可処分所得(同)」は再び前年を下回り(前年同月比-6.0%)、「家計消費支出(同)」は8か月ぶりのマイナスとなった(同-4.2%)。なお、「毎月勤労統計調査」における7月の「名目現金給与総額(事業所規模30人以上、2010年=100)」は116.7、同+4.2%で、3か月連続のプラスとなっている。

このような所得・消費環境のなか、8月の「大型店売上高(全店ベース=店舗調整前、対象店舗数は94店舗)」は前年同月比-0.7%で前月に続き前年を下回った。品目別でみると、「飲食料品」は3か月連続のプラス(同+1.4%)、「家庭用品」は前年比横ばい(同0.0%)となったものの、「家電機器」(同-10.9%)が前月に続き大幅のマイナスとなり、「衣料品」(同-7.6%)と「身の回り品」(同-6.2%)も前年を下回っている。また、「既存店ベース(=店舗調整後)」の売上高も2か月連続のマイナスとなっている(同-1.4%)。

8月の「乗用車新車登録台数(登録ナンバー別)」は、「普通乗用車(3ナンバー車)」が4か月ぶりに前年を上回ったものの(1,300台、前年同月比+4.0%)、「小型乗用車(5ナンバー車)」が4か月連続の大幅マイナスとなっているため(1,155台、同-11.5%)、2車種合計では4か月連続のマイナスだが、マイナス幅は縮小している(2,455台、同-3.9%)。今後の動向が注目される。また、「軽乗用車」は2か月ぶりのプラスとなった(1,840台、同+2.4%)。

## 民間設備投資…「民間非居住用建築着工床面積」は3か月連続のマイナス

民間設備投資と関連の深い「民間非居住用建築着工床面積」(8月)は34,501㎡、前年同月比-24.4%で、3か月連続のマイナスとなっている。業種別にみると、「サービス業用」は2か月ぶりに前年を上回ったものの、「鉱工業用」は2か月ぶり、「商業用」は3か月連続の大幅マイナスとなった(「サービス業用」:15,056㎡、同+2.9%、「鉱工業用」:15,066㎡、同-37.9%、「商業用」:4,379㎡、同-34.6%)。

8月のトラック新車登録台数は、「普通トラック(1ナンバー車)」が前月に続き前年を上回ったものの(71台、同+14.5%)、「小型四輪トラック(4ナンバー車)」が3か月連続かつ大幅のマイナスとなっているため(123台、同-21.2%)、2車種合計では3か月連続のマイナスとなっている(194台、同-11.0%)。

## 新設住宅着工…2か月ぶりの前年比マイナス

8月の「新設住宅着工戸数」は941戸、前年同月比-3.5%で、2か月ぶりのマイナスとなった。利用関係別でみると、「持家」は480戸、同+3.7%で前月に続きプラスとなったものの、「貸家」が127戸、同-27.4%で、2か月ぶりの大幅マイナスとなった。また、「分譲住宅」は334戸、同-0.9%で、高水準だが前月に続きマイナスとなった。内訳をみると、「分譲マンション」は1年ぶりの三ケタとなったものの(225戸、前年差+7戸)、「一戸建て」が前月に続き前年を下回っている(109戸、同-10戸)。

## 公共工事…前月に続き請負件数、金額ともに大幅のプラス

8月の西日本建設業保証(株)の保証による公共工事の請負件数と金額は、266件(前年同月比+61.2%)、約112億円(同+63.2%)で、前月に続き件数、金額ともに前年を大幅に上回った。請負金額を発注者別で多い順から並べると、「市町村」(約59億円、同+46.2%)、「県」(約36億円、同+112.4%)、「国」(約11億円、+621.3%)、「その他」(約3億円、同-33.3%)、「独立行政法人」(約3億円、同-44.7%)。

## 雇 用…「製造業の所定外労働時間指数」は4か月連続のプラス

8月の「新規求人数(パートを含む)」は7,765人(前年同月比+3.7%)で、11か月連続のプラスとなり、一方、「新規求職者数(同)」は5,934人(同-10.4%)と再び大幅のマイナスとなった。「新規求人倍率(パートを含む、季節調整済値)」は前月比-0.01ポイントの1.24倍で、「有効求人倍率(同)」は前月と同じ0.81倍となった。

産業別の「新規求人数」をみると、「卸売業、小売業」が15か月ぶりに前年を大きく下回り(936人、同-13.4%)、「サービス業」も2か月ぶりのマイナス(1,111人、同-7.4%)となったものの、「建設業」が21か月連続で前年を大きく上回っているのははじめ(482人、同+17.6%)、「医療、福祉」は7か月連続(1,419人、同+4.5%)、「製造業」は3か月連続(1,375人、同+7.8%)のそれぞれプラスとなっている。

また、7月の「常用雇用指数(事業所規模30人以上、2010年=100)」は101.4、同+0.1%で、6か月連続のプラスとなっている。ただ、伸び率は徐々に縮小している。また、「製造業の所定外労働時間指数(同)」は118.8、同+3.8%で、4か月連続で前年を上回っている。今後の動向が注目される。

## 倒 産…件数は5か月ぶり、負債総額は4か月ぶりに前年を上回る

(株)東京商工リサーチ滋賀支店のまとめによる9月の「負債金額10百万円以上」の倒産件数は8件(前年差+2件)となり、5か月ぶりに前年を上回り、負債総額は約521百万円(同+296百万円)で、負債総額10億円超の大型倒産はなかったものの、4か月ぶりに前年を上回った。業種別では「建設業」(5件)、原因別では「販売不振」(6件)が最も多い。資本金別では8件のうち4件が「1千万円未満」。

## 2. 生産…「鉱工業生産指数」の季調済指数は再びプラス

2013年7月の県内製造業の生産状況は、鉱工業生産指数(2005年=100)の「原指数」が107.5、前年同月比-1.6%と、前月に続き前年を下回ったものの、「季節調整済指数」は99.2、前月比+1.2%で、再びプラスとなった(図1、巻末の県内経済指標NO. 1)。しかし、鉱工業全体の季調済指数の3か月移動平均値(6月)は99.9、前月比-0.3%で、前月に続きマイナスとなっている(図2)。

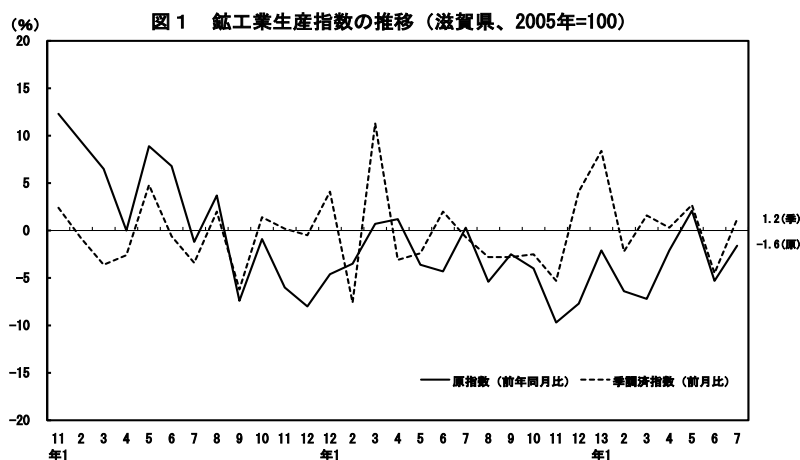


図2 鉱工業生産指数の3か月移動平均値  
(季節調整済値、滋賀県：2005年=100、全国：2010年=100)

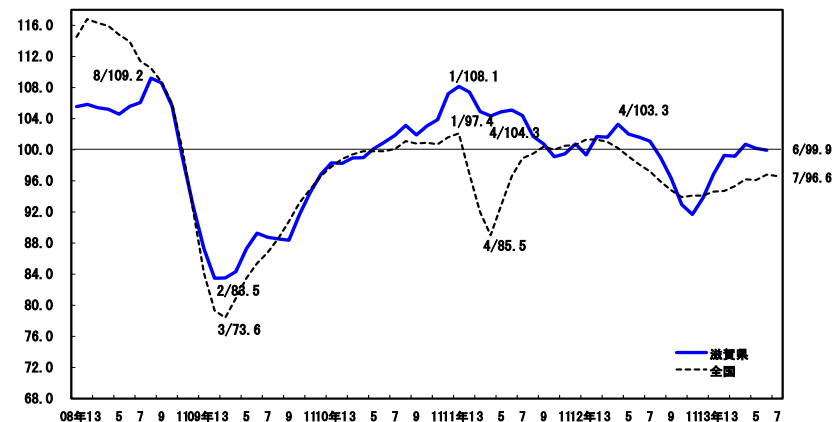
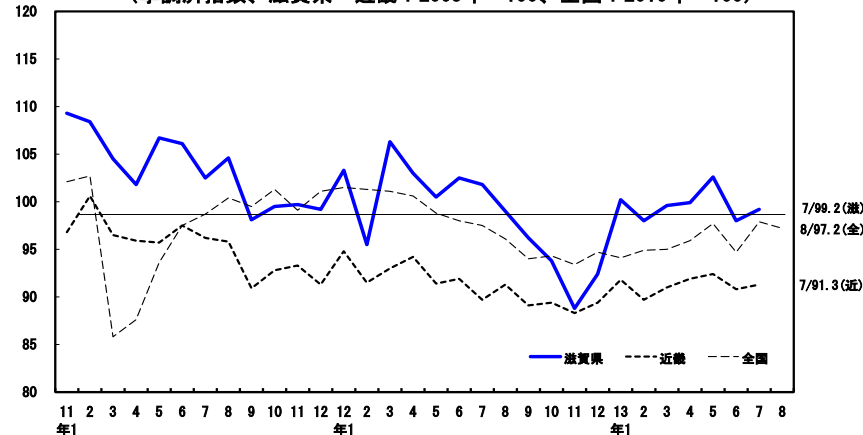


図3 鉱工業生産指数の全国、近畿との比較  
(季調済指数、滋賀県・近畿：2005年=100、全国：2010年=100)



業種別(中分類)に季調済指数の水準をみると(図4、図5、図6)、「その他」(44.4)や「繊維」(77.8)、「一般機械」(80.7)、「鉄鋼」(83.5)などは低いものの、「精密機械」(135.5)や「窯業・土石」(115.6)、「化学」(112.5)、「電気機械」(110.3)などは高水準が続いている。また、前月と比べると、「電気機械」(前月比-6.0%)や「繊維」(同-4.0%)などは大幅に低下したが、「精密機械」(同+17.4%)や「鉄鋼」(同+6.5%)、「化学」(同+6.0%)などは大幅の上昇となった。

図4 業種別の鉱工業生産指数の推移①  
(季調済指数、2005年=100)

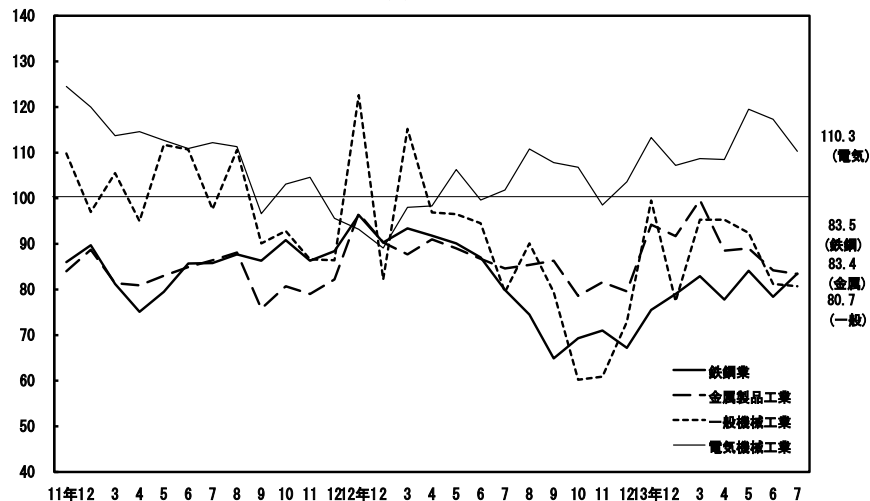


図5 業種別の鉱工業生産指数の推移②  
(季調済指数、2005年=100)

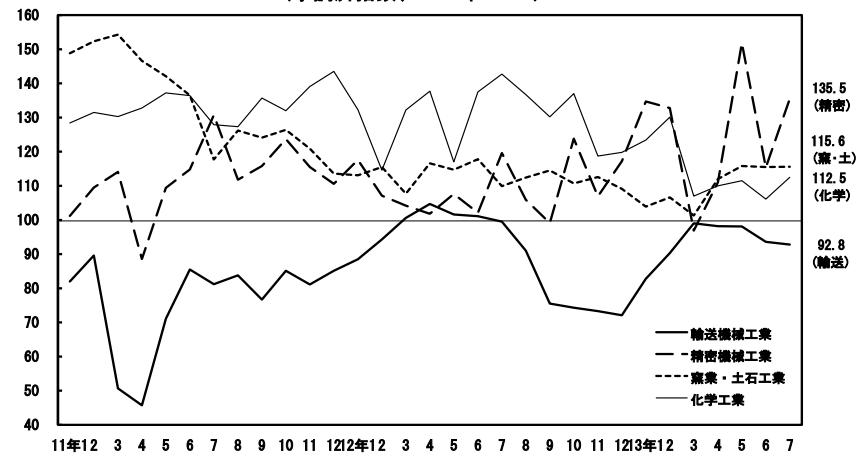
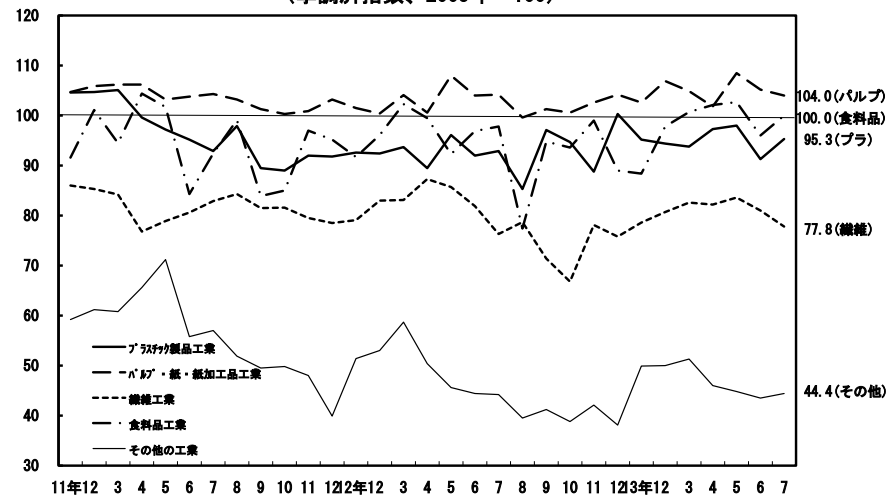
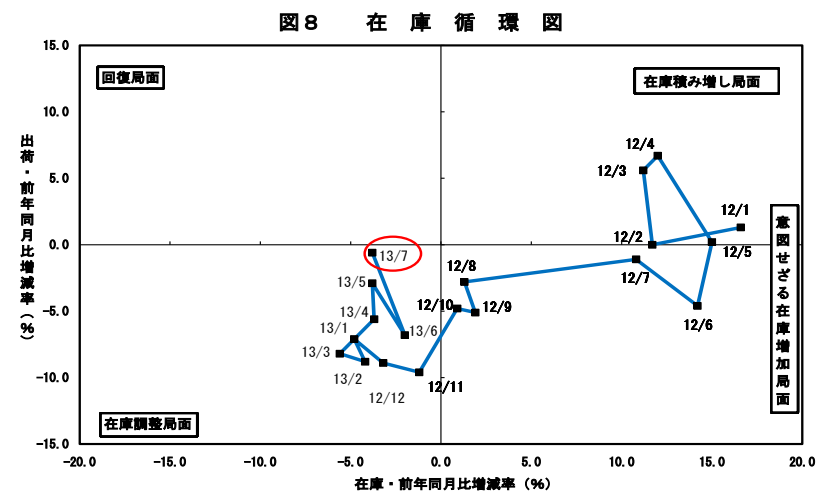
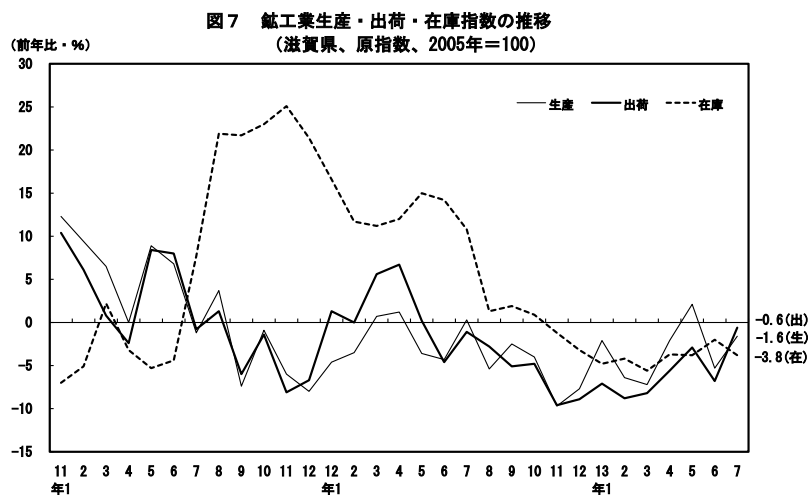


図6 業種別の鉱工業生産指数の推移③  
(季調済指数、2005年=100)



鋳工業の「出荷指数」と「在庫指数（製品在庫）」を前年比で見ると（図7、県内経済指標NO. 1）、出荷は14か月連続で前年を下回っているものの、マイナス幅は縮小しており（原指数113.8、前年同月比-0.6%）、在庫は9か月連続のマイナスとなっているため（同102.6、同-3.8%）、在庫循環図では“在庫調整局面”にあるものの、“回復局面”に近づいている（図8）。今後の動向が注目される。





### 3. 個人消費…普通乗用車の「新車登録台数」は4か月ぶりのプラス

8月の「消費者物価指数(生鮮食品を除く総合)(大津市)(2010年=100)」は100.0、前年同月比+0.8%、前月比+0.3%となり、とくに前年比では4か月連続かつ大幅のプラスとなっている(図9、経済指標NO. 2)。これは、飲料や酒類、家庭用耐久財、室内装備品、医薬品・健康保持用摂取品などは前年比、前月比ともに下落したものの、エネルギー(電気代、ガス、灯油、ガソリン)が電気代(前年同月比+14.6%、前月比+0.5%)の大幅値上げにより、大きく上昇している(前年同月比+10.5%、前月比+1.4%)のに加え、家事用消耗品や交通、自動車等関係費などが上昇したためとみられる。なお、食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合(いわゆる「コアコア指数」)でみると、前年同月比0.0%、前月比-0.1%で、落ち着いた動きが続いている。

8月の「可処分所得(同)」は再び前年を下回り(前年同月比-6.0%)、「家計消費支出(同)」は8か月ぶりのマイナスとなった(同-4.2%)(図10、経済指標NO. 2)。品目別にみると、穀類や菓子類、電気代、家事用耐久財、補習教育、教養娯楽用耐久財などの費用は増加したものの、調理食品や住居の設備修繕・維持、保健医療サービス、自動車等維持、パック旅行費、交際費などの費用は減少した。

なお、「毎月勤労統計調査」における7月の「名目現金給与総額(事業所規模30人以上、2010年=100)」は116.7、同+4.2%で、3か月連続のプラスとなっている(経済指標NO. 6)。

図9 消費者物価指数の推移  
(大津市、2010年=100、生鮮食品を除く総合)

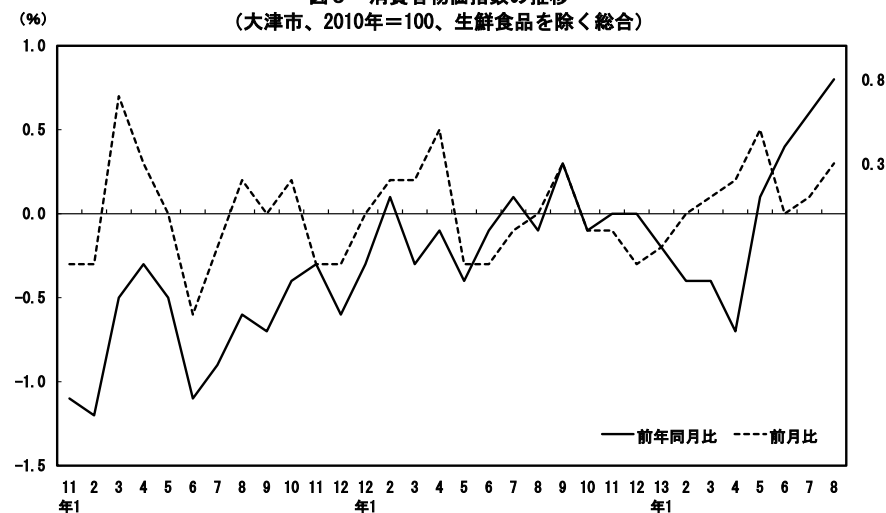
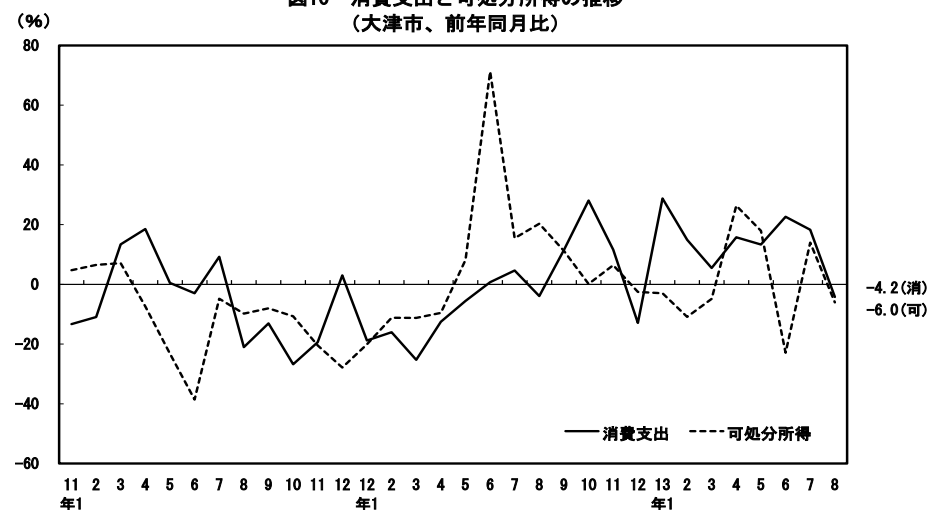
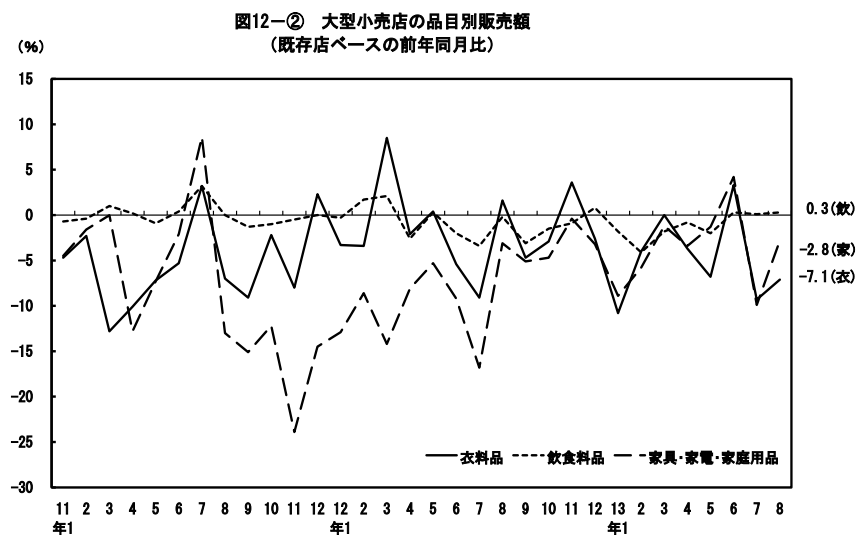
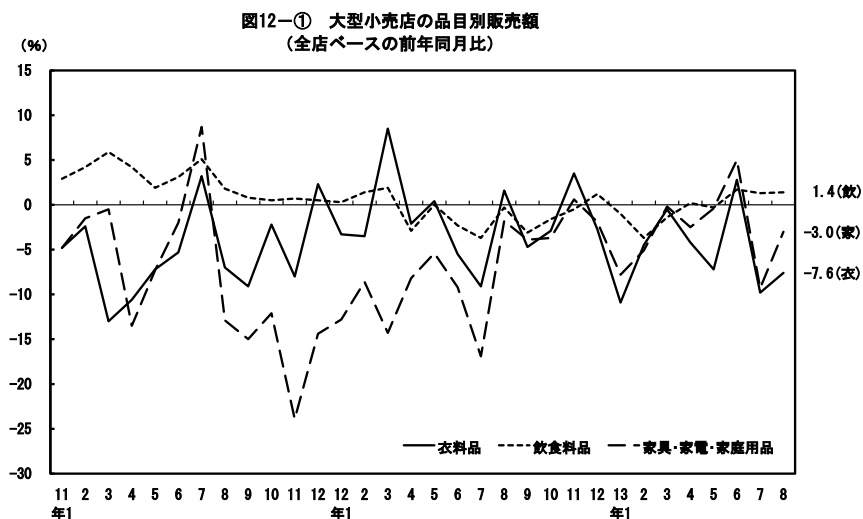
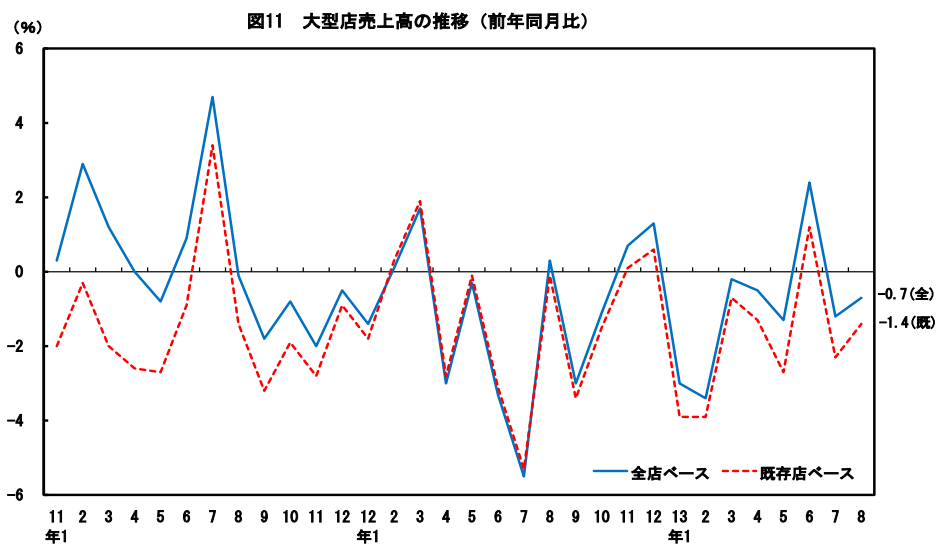


図10 消費支出と可処分所得の推移  
(大津市、前年同月比)



このような所得・消費環境のなか、8月の「大型店売上高(全店ベース＝店舗調整前、対象店舗数は94店舗)」は前年同月比-0.7%で前月に続き前年を下回った(図11、経済指標NO. 2)。品目別でみると(図12-①)、「飲食料品」は3か月連続のプラス(同+1.4%)、「家庭用品」は前年比横ばい(同0.0%)となったものの、「家電機器」(同-10.9%)が前月に続き大幅のマイナスとなり、「衣料品」(同-7.6%)と「身の回り品」(同-6.2%)も前年を下回っている。

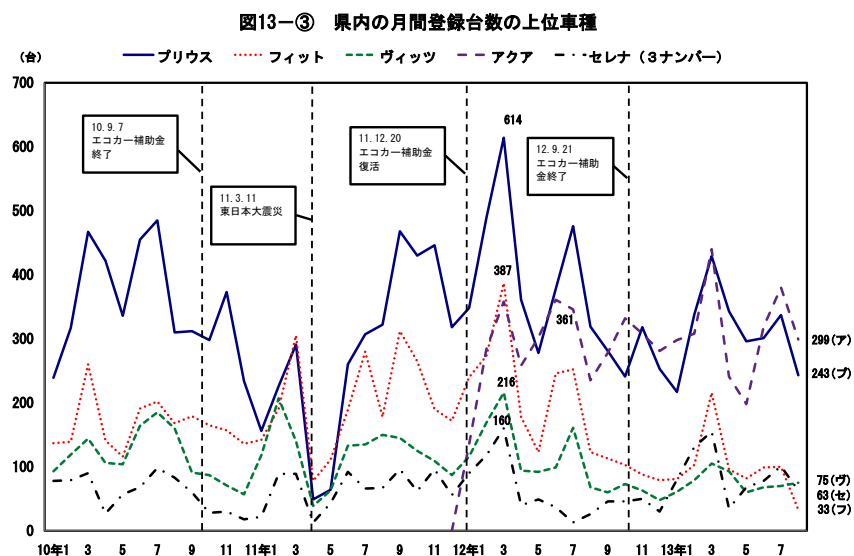
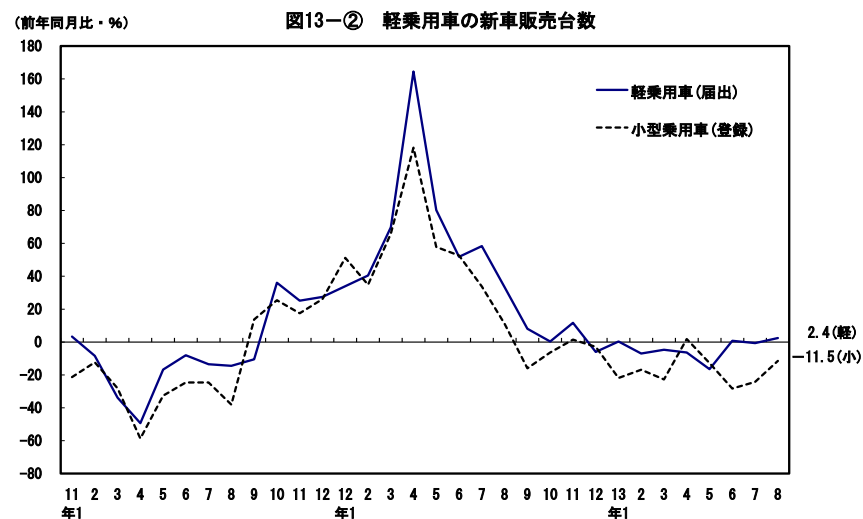
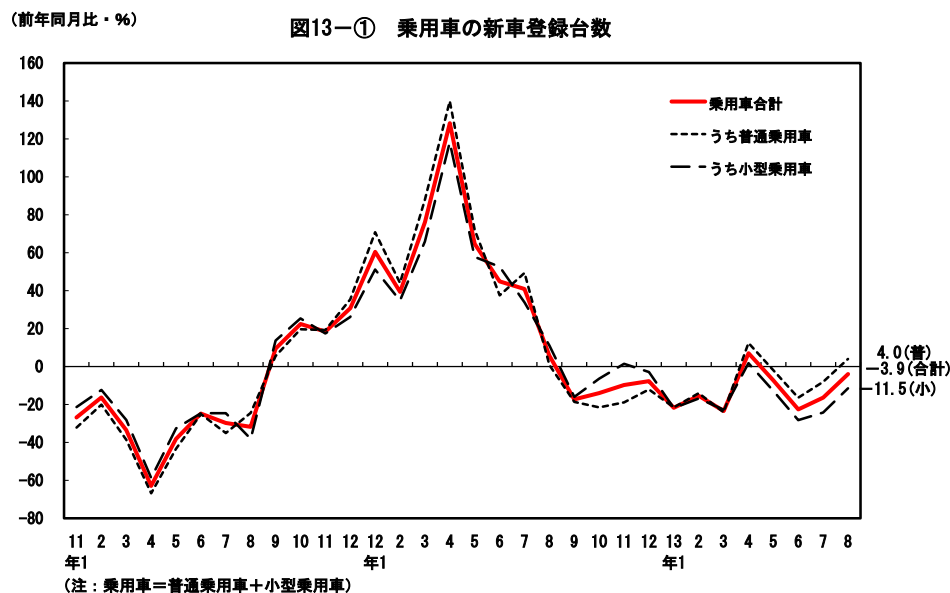
また、「既存店ベース(＝店舗調整後)」の売上高も2か月連続のマイナスとなった(同-1.4%)(図11、図12-②、経済指標NO. 2)。「飲食料品」(同+0.3%)と「家庭用品」(同+0.2%)がプラスとなったものの、他の品目はすべてマイナス。



8月の「乗用車新車登録台数(登録ナンバー別)」は、「普通乗用車(3ナンバー車)」が4か月ぶりに前年を上回ったものの(1,300台、前年同月比+4.0%)、「小型乗用車(5ナンバー車)」が4か月連続の大幅マイナスとなっているため(1,155台、同-11.5%)、2車種合計では4か月連続のマイナスだが、マイナス幅は縮小している(2,455台、同-3.9%) (図13-①、図13-③、経済指標NO. 2)。今後の動向が注目される。

また、「軽乗用車」は2か月ぶりのプラスとなった(1,840台、同+2.4%) (図13-②、経済指標NO. 2)。

図13 乗用車の新車登録台数(登録ナンバー別)と軽乗用車の新車販売台数



#### 4. 民間設備投資…「民間非居住用建築着工床面積」は3か月連続のマイナス

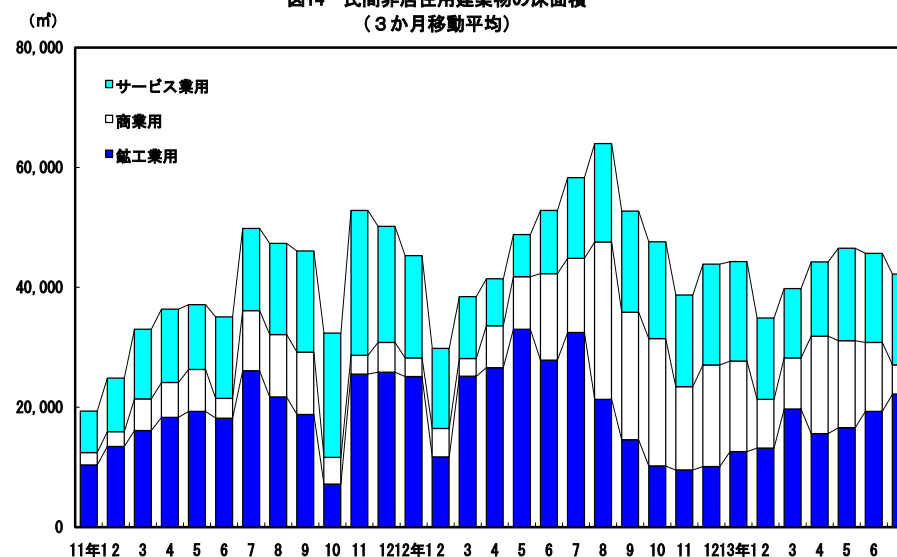
民間設備投資と関連の深い「民間非居住用建築着工床面積」（8月）は34,501㎡、前年同月比-24.4%で、3か月連続のマイナスとなっている（経済指標NO. 3）。業種別にみると、「サービス業用」は2か月ぶりに前年を上回ったものの、「鉱工業用」は2か月ぶり、「商業用」は3か月連続の大幅マイナスとなった（「サービス業用」：15,056㎡、同+2.9%、「鉱工業用」：15,066㎡、同-37.9%、「商業用」：4,379㎡、同-34.6%）。

月々の季節変動を3か月移動平均で調整すると（図14）、6月は45,679㎡、同-13.5%で前月に続き前年を下回った。業種別に多い順に並べると、「鉱工業用」19,311㎡、同-30.7%、「サービス業用」14,857㎡、同+41.2%、「商業用」11,511㎡、同-20.2%となった。

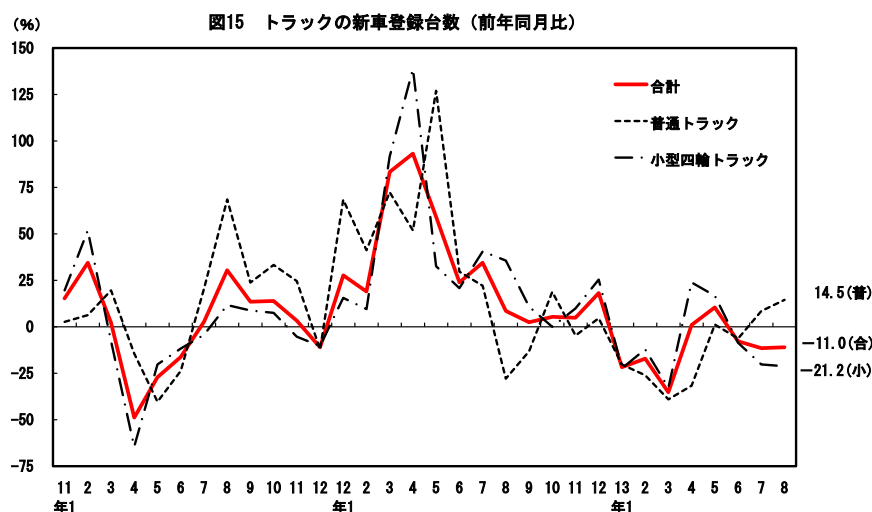
##### 【8月の主な業種別・地域別申請状況】

- (イ) 「鉱工業用」：東近江市（8,634㎡）、草津市（1,919㎡）、湖南市（1,409㎡）、守山市（1,085㎡）など
- (ロ) 「商業用」：甲賀市（3,179㎡）など
- (ハ) 「サービス業用」：草津市（4,581㎡）、近江八幡市（3,015㎡）、大津市（2,178㎡）、守山市（1,810㎡）など

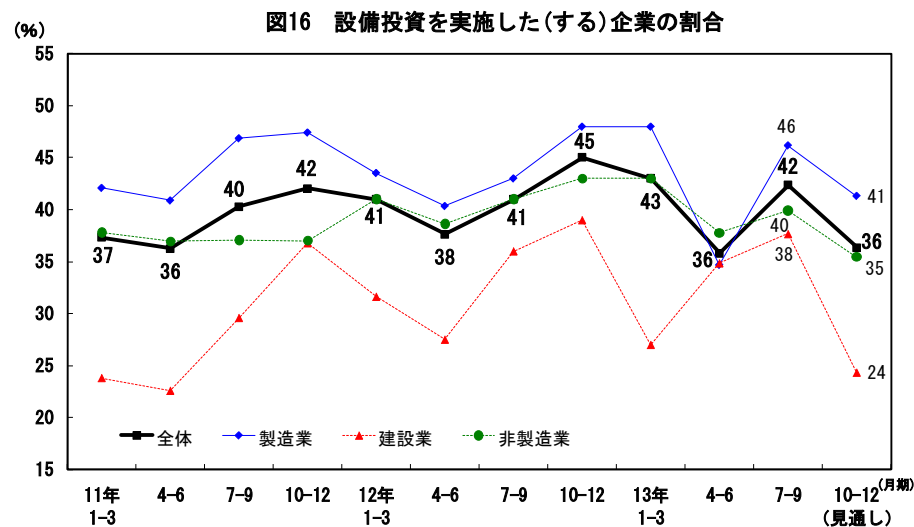
図14 民間非居住用建築物の床面積  
（3か月移動平均）



8月のトラック新車登録台数は、「普通トラック(1ナンバー車)」が前月に続き前年を上回ったものの(71台、同+14.5%)、「小型四輪トラック(4ナンバー車)」が3か月連続かつ大幅のマイナスとなっているため(123台、同-21.2%)、2車種合計では3か月連続のマイナスとなっている(194台、同-11.0%) (図15)。



株式会社しがぎん経済文化センターが8月に実施した「県内企業動向調査」によると(有効回答数507社)(図16)、7-9月期に設備投資を「実施」した(する)割合は、前期(36%)から+6ポイントの42%と再び4割台に上昇。しかし、次期10-12月期は36%と低下の見通し。



当期の設備投資「実施」企業の主な投資内容は、「生産・営業用設備の更新」(43%)が最も多い。業種別にみると、製造業では「生産・営業用設備の更新」(60%)、建設業では「車両の購入」(66%)、非製造業では「生産・営業用設備の更新」(30%)が最も多い。

設備投資実施(13/7-9月期)の主な内容(複数回答)

	生産・営業用設備の更新	生産・営業用設備の新規導入	土地購入	建物の増改築	建物の新築	車両の購入	OA機器の購入	ソフトウェアの購入	その他
全体	43	29	7	13	9	30	23	14	5
製造業	60	42	3	12	9	23	18	13	2
建設業	21	3	10	0	7	66	24	24	10
非製造業	30	22	10	20	9	28	29	13	6

## 5. 新設住宅着工…2か月ぶりの前年比マイナス

8月の「新設住宅着工戸数」は941戸、前年同月比-3.5%で、2か月ぶりのマイナスとなった(図17、経済指標NO. 4)。

利用関係別でみると(図18、経済指標NO. 4)、「持家」は480戸、同+3.7%(大津市92戸、彦根市56戸、長浜市52戸など)で前月に続きプラスとなったものの、「貸家」が127戸、同-27.4%(甲賀市30戸、彦根市29戸など)で、2か月ぶりの大幅マイナスとなった。また、「分譲住宅」は334戸、同-0.9%(草津市229戸、大津市49戸など)で、高水準だが前月に続きマイナスとなった。内訳をみると、「分譲マンション」は1年ぶりの三ケタとなったものの(225戸、前年差+7戸)、「一戸建て」が前月に続き前年を下回っている(109戸、同-10戸)(図19、図20)。7月の分譲マンション新規販売率(1月からの新規販売戸数累計:283戸/同新規供給戸数累計:317戸)は89.3%と、好不調の境目といわれる70%を大きく上回っている(参考:近畿全体では81.1%)。なお、給与住宅はなし。

図17 新設住宅着工戸数の推移  
(近畿、全国との比較)

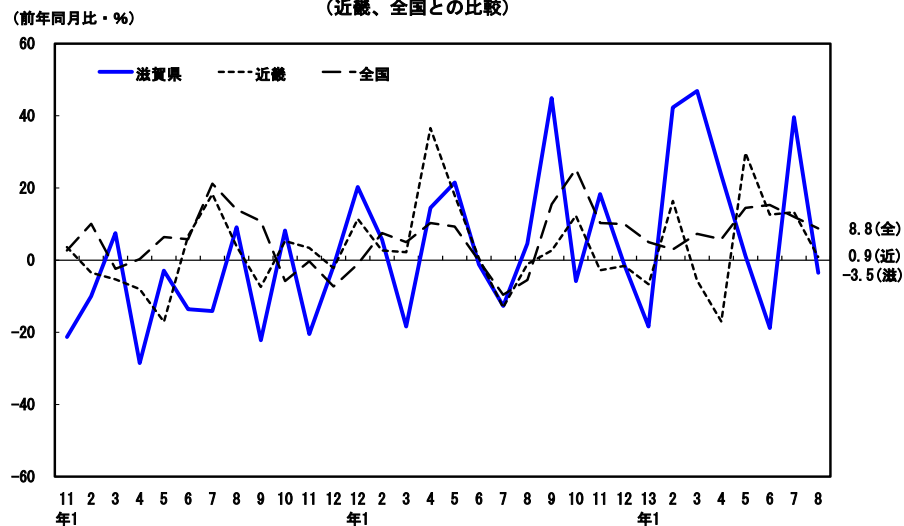


図18 新設住宅着工戸数(利用関係別)

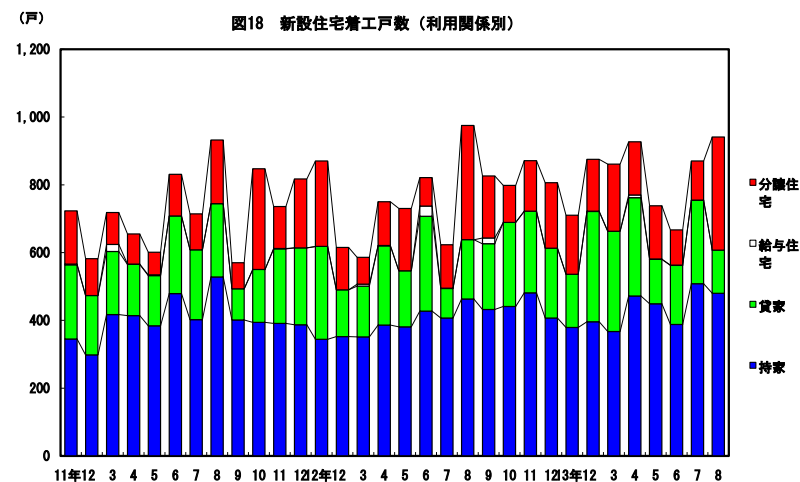


図19 一戸建て分譲住宅の着工動向

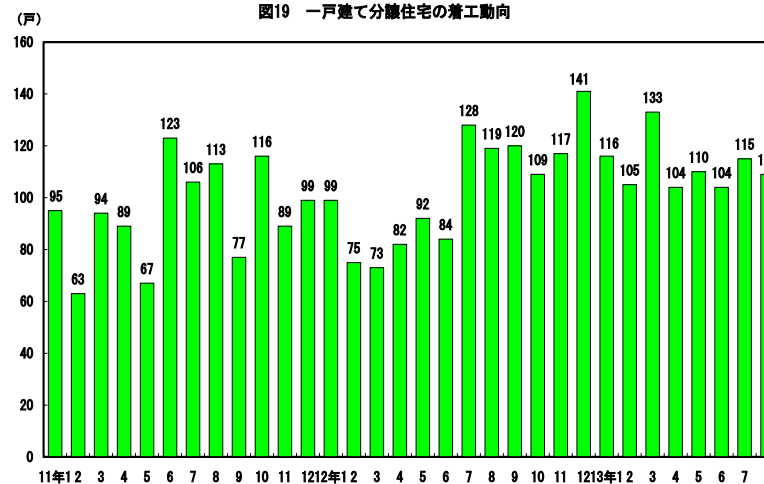
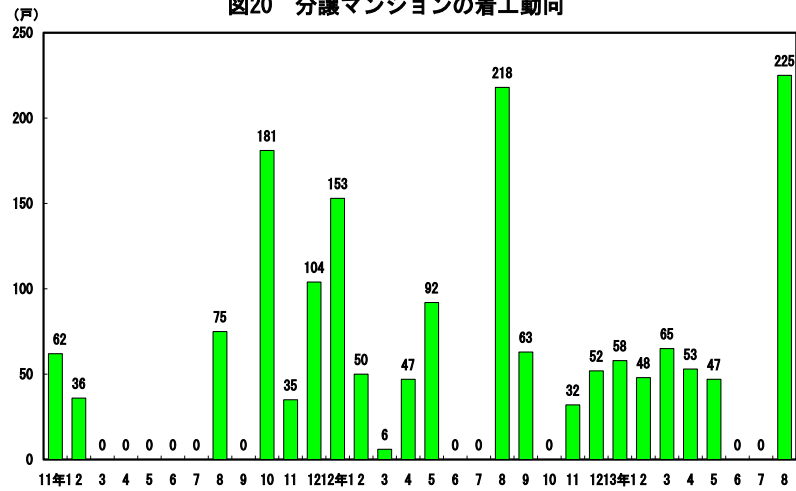
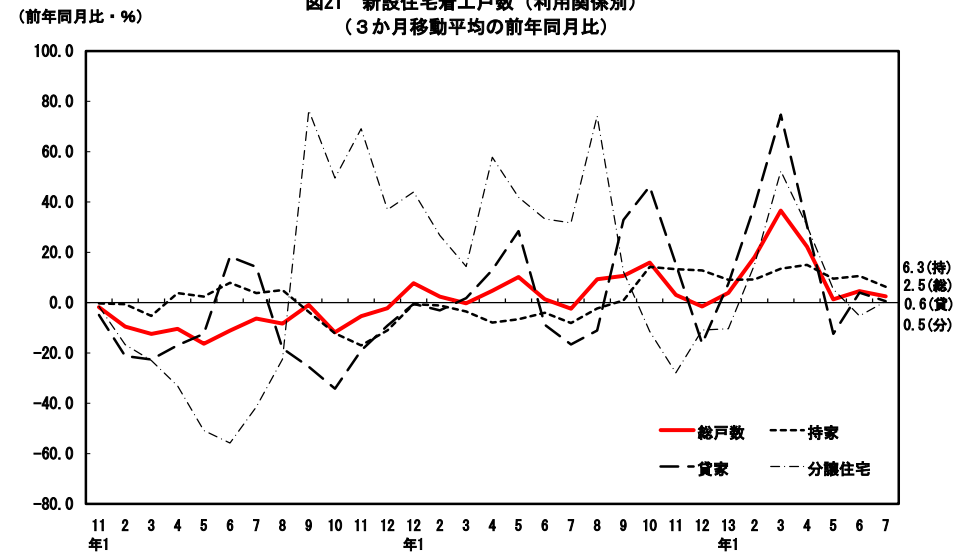


図20 分譲マンションの着工動向



月々の季節変動を3か月移動平均で調整すると(7月)、総戸数では826戸、同+2.5%で7か月連続のプラスとなっている。利用関係別にみると、「持家」は11か月連続(459戸、同+6.3%)、「貸家」は2か月連続(182戸、同+0.6%)、「分譲住宅」も2か月ぶりのそれぞれプラス(184戸、同+0.5%) (図21)となった。

図21 新設住宅着工戸数(利用関係別)  
(3か月移動平均の前年同月比)



## 6. 公共工事…前月に続き請負件数、金額ともに大幅のプラス

8月の西日本建設業保証(株)の保証による公共工事の請負件数と金額は、266件(前年同月比+61.2%)、約112億円(同+63.2%)で、前月に続き件数、金額ともに前年を大幅に上回った(図22、図23、図24、経済指標NO. 4)。

請負金額を発注者別で多い順から並べると、「市町村」(約59億円、同+46.2%)、「県」(約36億円、同+112.4%)、「国」(約11億円、+621.3%)、「その他」(約3億円、同-33.3%)、「独立行政法人」(約3億円、同-44.7%)(図22、図23)。

### 《8月の主な大型工事(3億円以上)》

- 国 : (この基準規模では該当工事なし)
- 独立行政法人 : (この基準規模では該当工事なし)
- 県 : (この基準規模では該当工事なし)
- 市町村 : (仮称) 北部地域総合消防防災センター建設工事(大津市)  
大津市立皇子山中学校大規模改修工事  
大津市立瀬田小学校大規模改修工事
- その他 : (この基準規模では該当工事なし)

図22 公共工事請負額

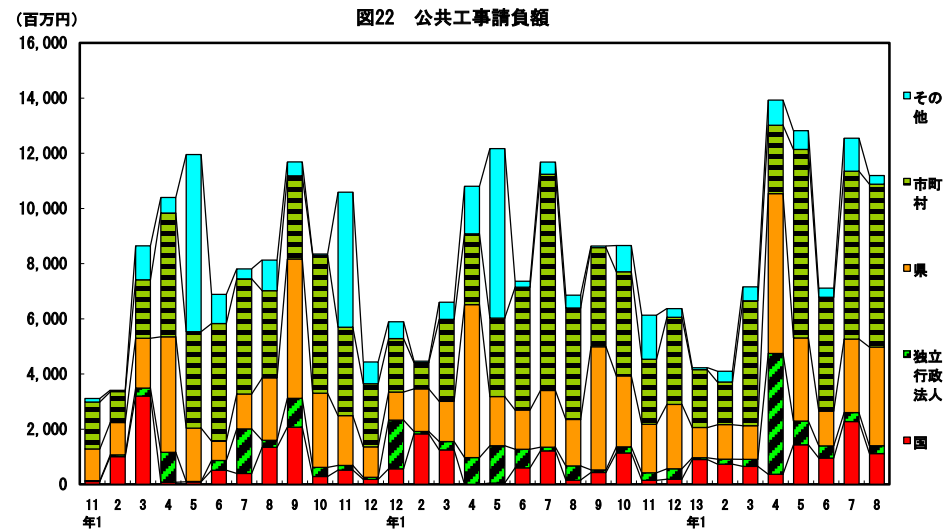
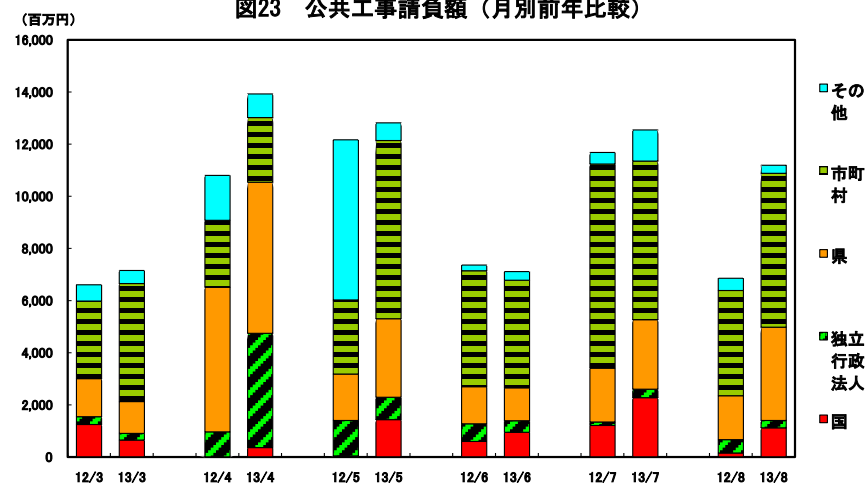
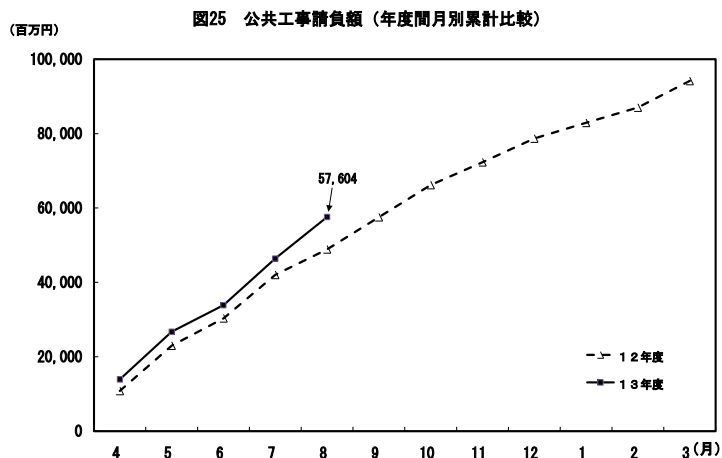
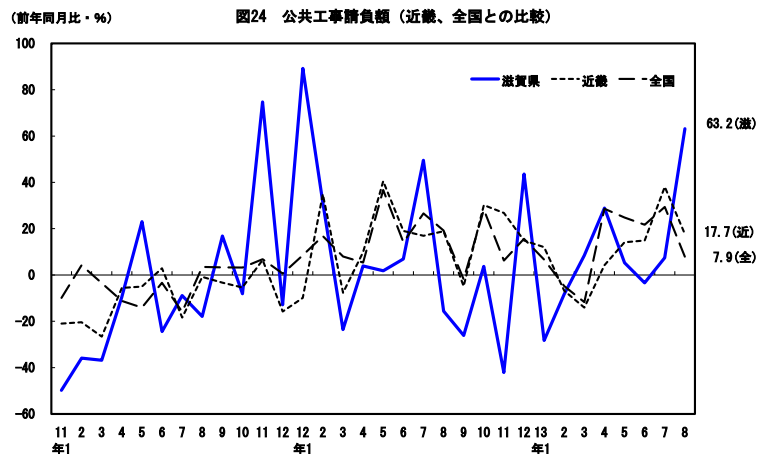


図23 公共工事請負額(月別前年比較)



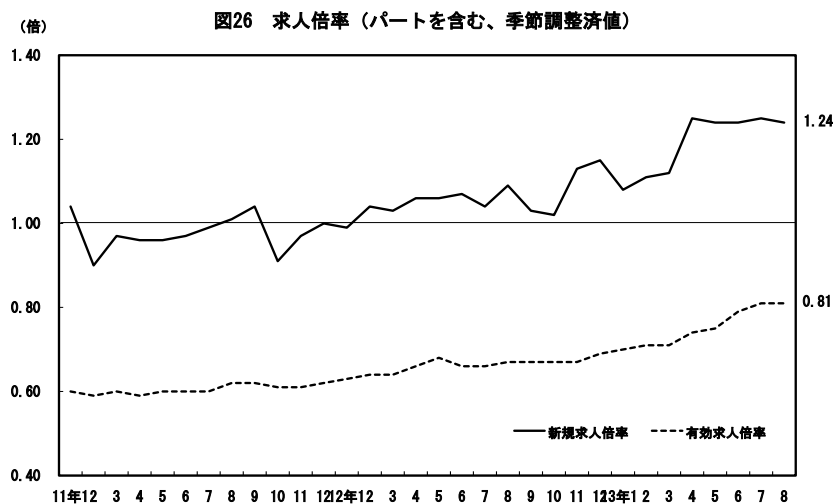


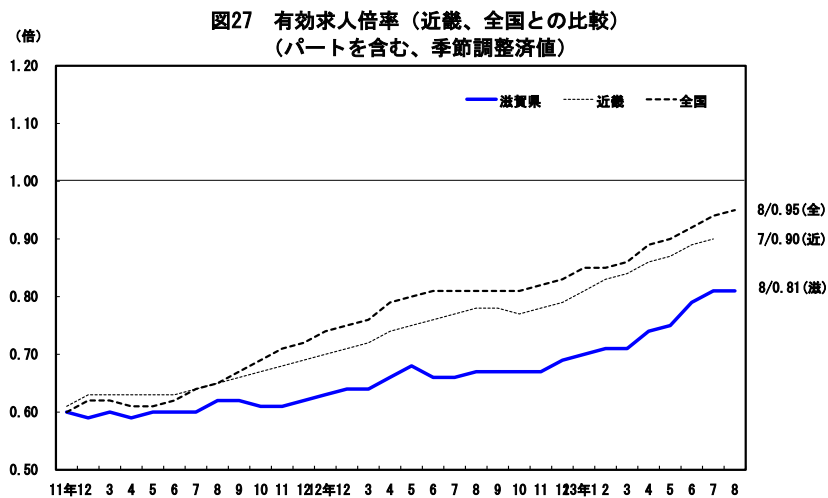


## 7. 雇 用…「製造業の所定外労働時間指数」は4か月連続のプラス

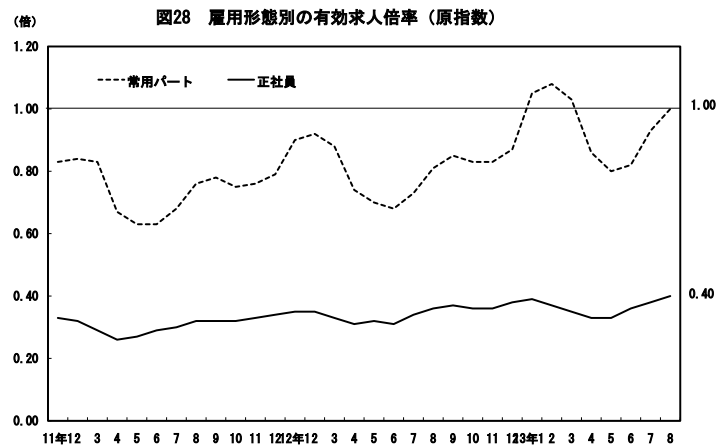
8月の「新規求人数(パートを含む)」は7,765人(前年同月比+3.7%)で、11か月連続のプラスとなり、一方、「新規求職者数(同)」は5,934人(同-10.4%)と再び大幅のマイナスとなった(経済指標NO. 5)。

「新規求人倍率(パートを含む、季節調整済値)」は前月比-0.01ポイントの1.24倍で、「有効求人倍率(同)」は前月と同じ0.81倍となった(図26、図27、経済指標NO. 5)。

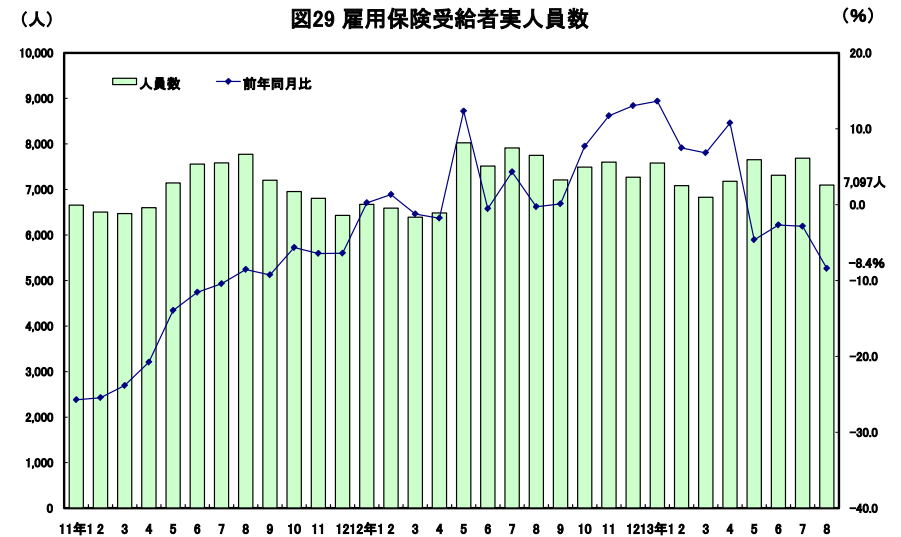




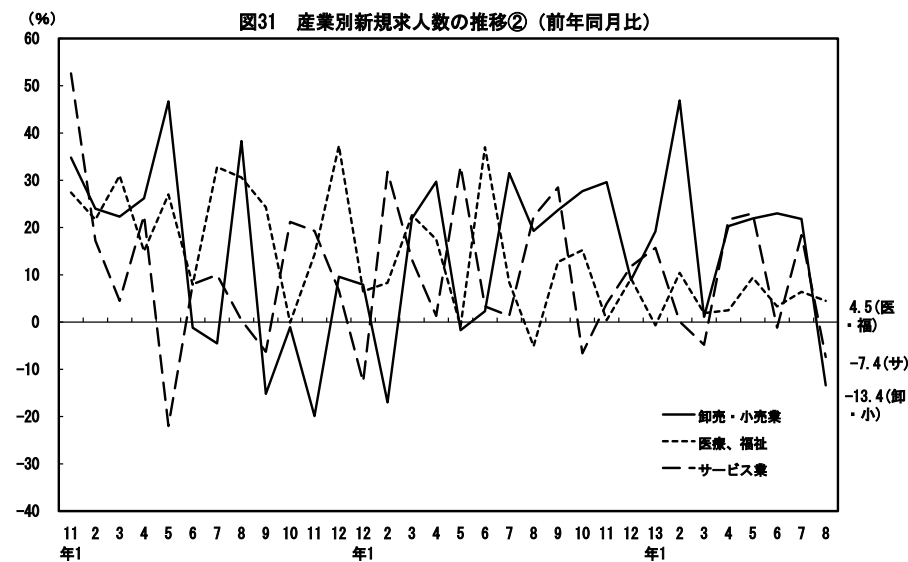
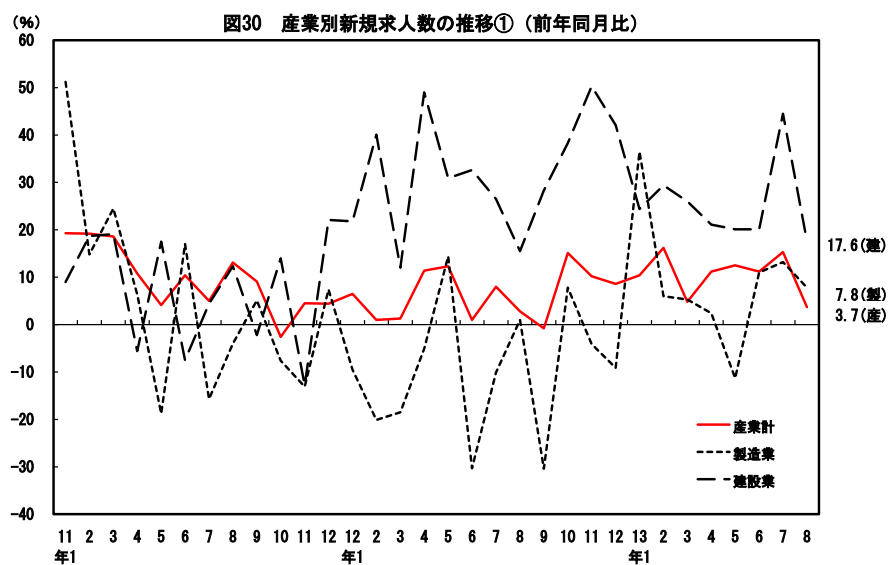
雇用形態別に有効求人倍率（原指数）をみると（8月）（図28）、「常用パート」は1.00倍（前月差+0.07倍）で5か月ぶりの1倍台となった。「正社員」は0.40倍（同+0.02倍）で上昇しているものの、依然、低水準に止まっている。



8月の「雇用保険受給者実人員数」は7,097人、同-8.4%で、4か月連続で前年を下回っている（図29、経済指標NO. 5）。今後の動向を注視する必要がある。



8月の産業別の「新規求人数」をみると（図30、図31）、「卸売業、小売業」が15か月ぶりに前年を大きく下回り（936人、同-13.4%）、「サービス業」も2か月ぶりのマイナス（1,111人、同-7.4%）となったものの、「建設業」が21か月連続で前年を大きく上回っているのははじめ（482人、同+17.6%）、「医療、福祉」は7か月連続（1,419人、同+4.5%）、「製造業」は3か月連続（1,375人、同+7.8%）のそれぞれプラスとなっている。



また、7月の「常用雇用指数(事業所規模30人以上、2010年=100)」は101.4、同+0.1%で、6か月連続のプラスとなっている。ただ、伸び率は徐々に縮小している。また、「製造業の所定外労働時間指数(同)」は118.8、同+3.8%で、4か月連続で前年を上回っている(図32、図33、経済指標NO. 6)。今後の動向が注目される。

図32 常用雇用指数と所定外労働時間指数  
(2010年=100)

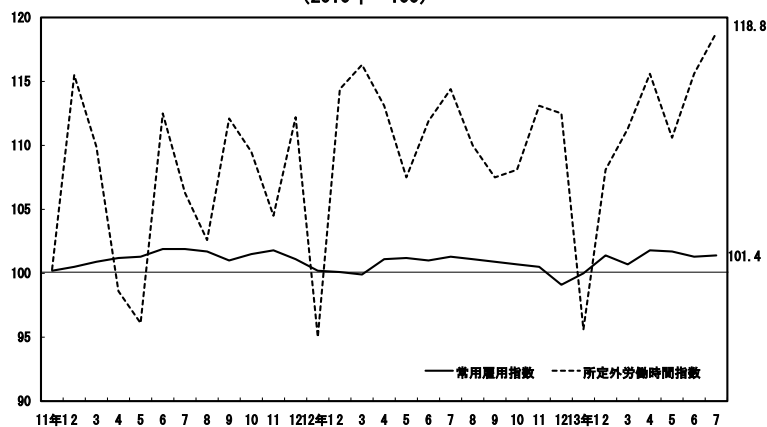
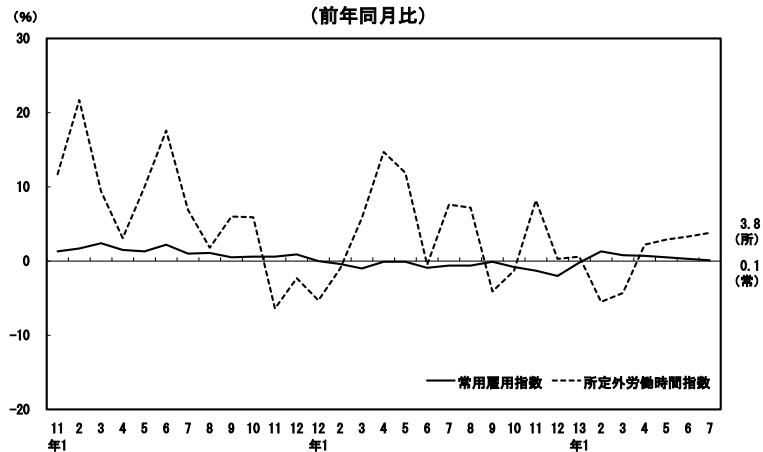
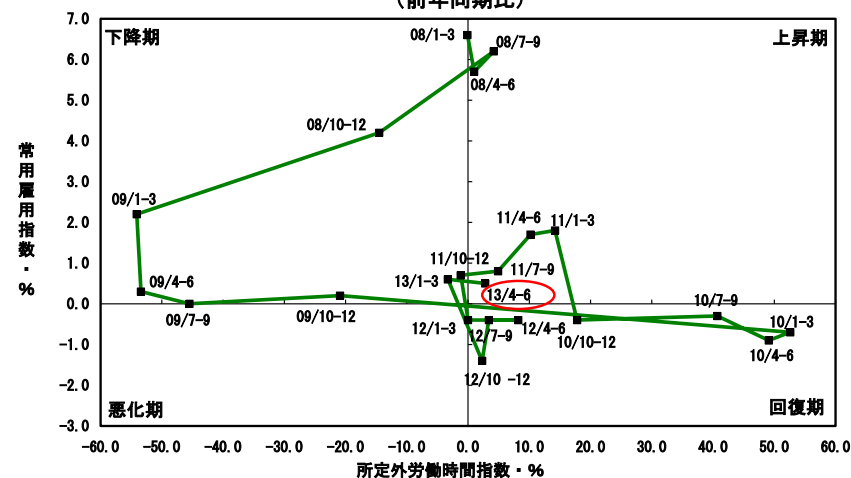


図33 常用雇用指数と所定外労働時間指数  
(前年同月比)



4-6月期の両指数の前年同期比増加率をみると(図34)、常用雇用指数は2四半期連続のプラスとなり(前年同期比+0.5%)、所定外労働時間指数は再びプラスとなったため(同+2.8%)、「下降期」から「上昇期」に入った。

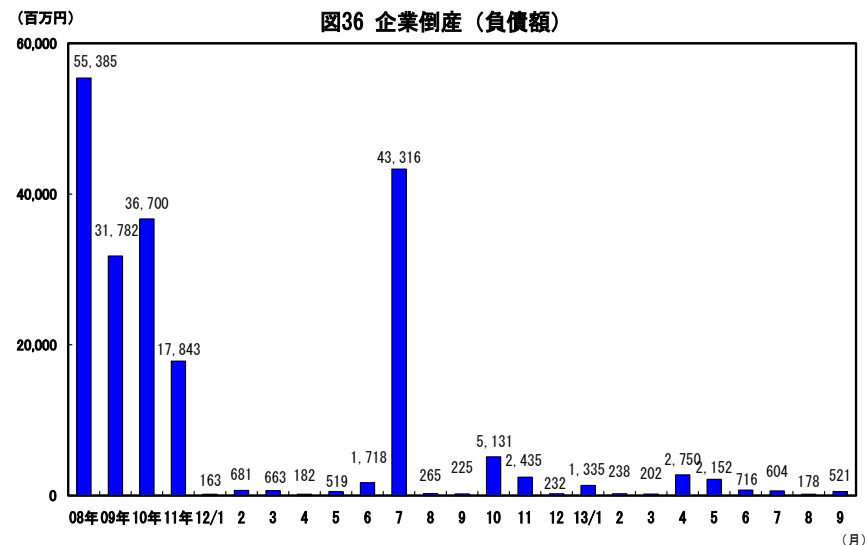
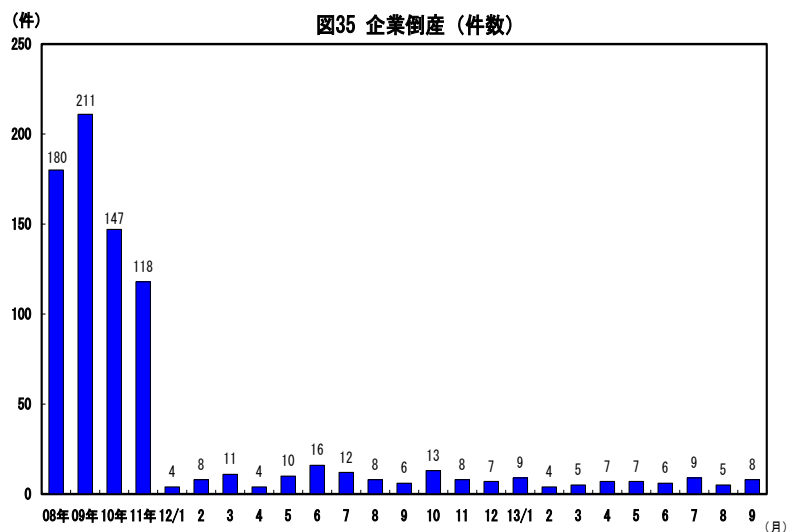
図34 常用雇用指数と所定外労働時間指数  
(前年同期比)



## 8. 倒産…件数は5か月ぶり、負債総額は4か月ぶりに前年を上回る

㈱東京商工リサーチ滋賀支店のまとめによる9月の「負債金額10百万円以上」の倒産件数は8件（前年差+2件）となり、5か月ぶりに前年を上回り、負債総額は約521百万円（同+296百万円）で、負債総額10億円超の大型倒産はなかったものの、4か月ぶりに前年を上回った（図35、図36、経済指標NO. 6）。

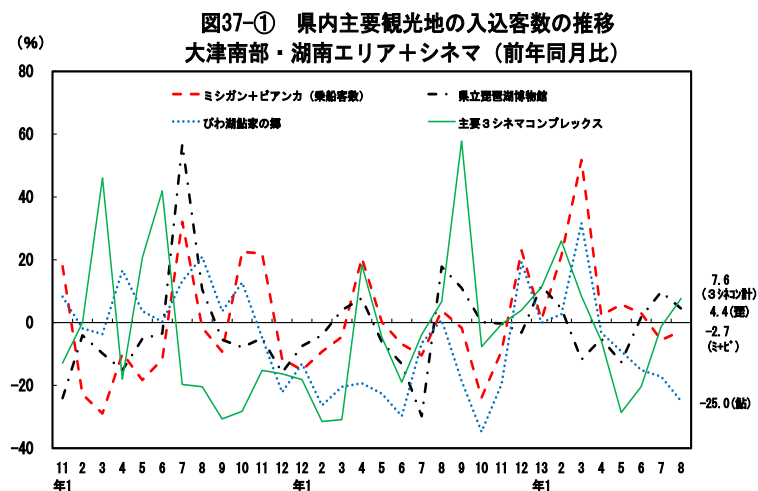
業種別では「建設業」が5件、「情報通信業」が2件、「サービス業他」が1件。原因別では「販売不振」が6件、「過小資本」が2件。資本金別では8件のうち4件が「1千万円未満」。



## 9. 県内主要観光地の観光客数

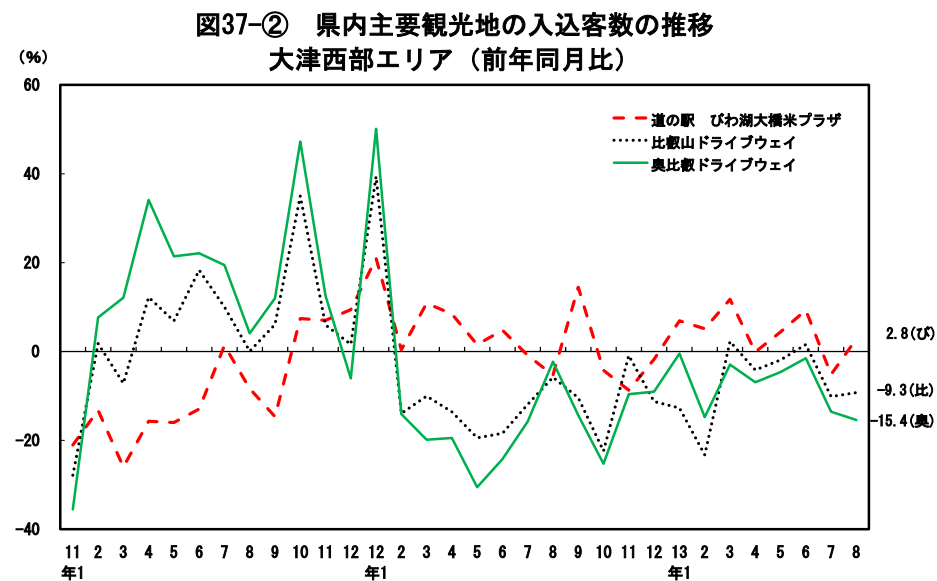
### 【①大津南部・湖南エリア+シネマ】

ミシガン+ピアンカ……………	8月	31,140人	(前年同月比	- 2.7%)
県立琵琶湖博物館……………	8月	79,973人	(同	+ 4.4%)
びわ湖鮎家の郷……………	8月	18,900人	(同	-25.0%)
主要3シネマコンプレックス……………	8月	59,676人	(同	+ 7.6%)



### 【②大津西部エリア】

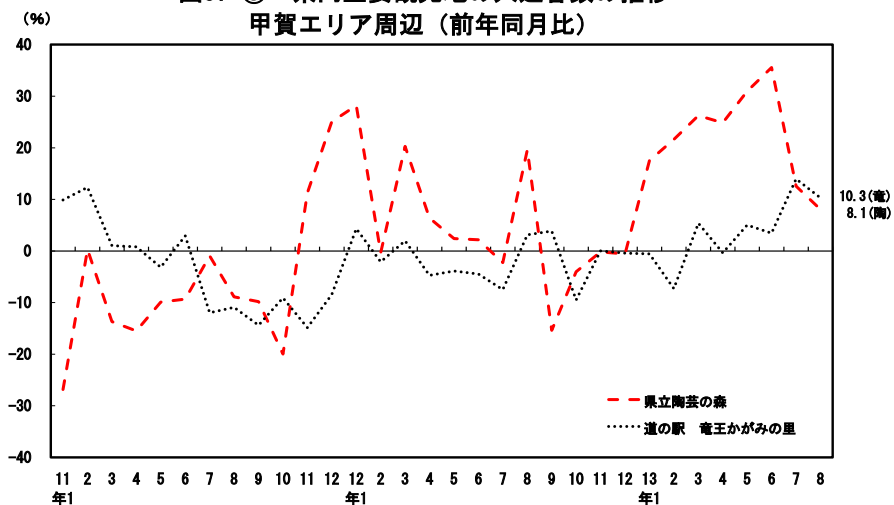
道の駅：びわ湖大橋米プラザ…	8月	77,577人	(同 + 2.8%)
比叡山ドライブウェイ……………	8月	70,181人	(同 - 9.3%)
奥比叡ドライブウェイ……………	8月	34,990人	(同 -15.4%)



【③甲賀エリア周辺】

県立陶芸の森……………8月 25,777人 (同 + 8.1%)  
 道の駅：竜王かがみの里……………8月 78,024人 (同 +10.3%)

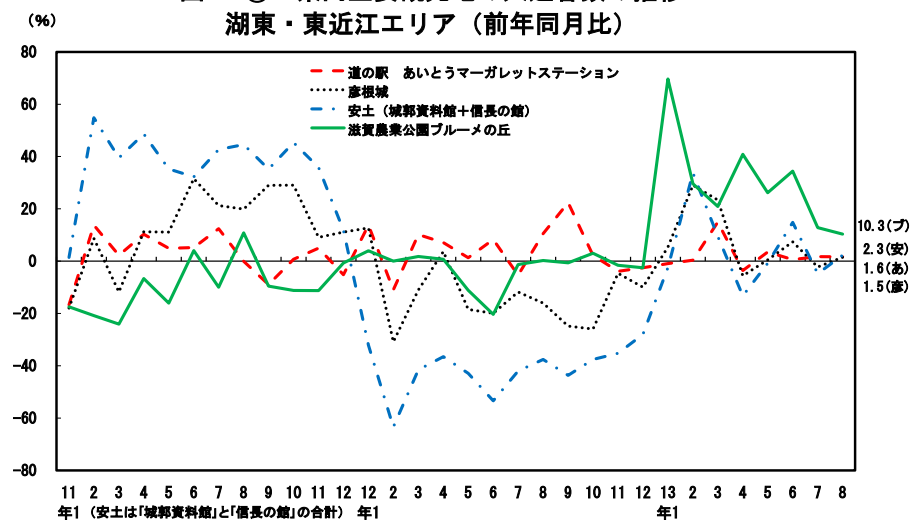
図37-③ 県内主要観光地の入込客数の推移  
 甲賀エリア周辺 (前年同月比)



【④湖東・東近江エリア】

道の駅：あいとうマーガレットステーション …8月 59,728人 (同 + 1.6%)  
 彦根城……………8月 78,429人 (同 + 1.5%)  
 安土(城郭資料館+信長の館)……………8月 11,902人 (同 + 2.3%)  
 滋賀農業公園ブルーメの丘……………8月 29,773人 (同 +10.3%)

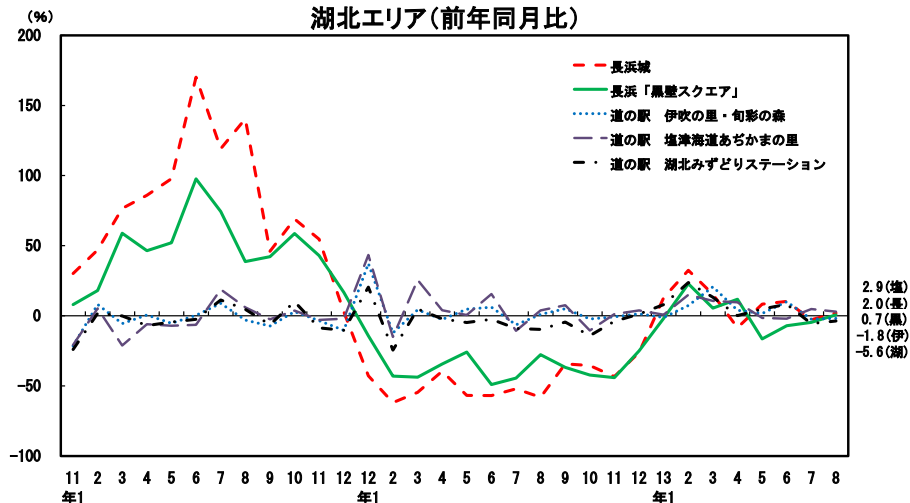
図37-④ 県内主要観光地の入込客数の推移  
 湖東・東近江エリア (前年同月比)



【⑤湖北エリア】

長浜城……………8月 14,887人 (同 + 2.0%)  
 長浜「黒壁スクエア」……………8月 165,906人 (同 + 0.7%)  
 道の駅：伊吹の里・旬彩の森……………8月 43,645人 (同 - 1.8%)  
 // : 塩津海道あぢかまの里……………8月 55,515人 (同 + 2.9%)  
 // : 湖北みずどりステーション……………8月 44,086人 (同 - 3.8%)

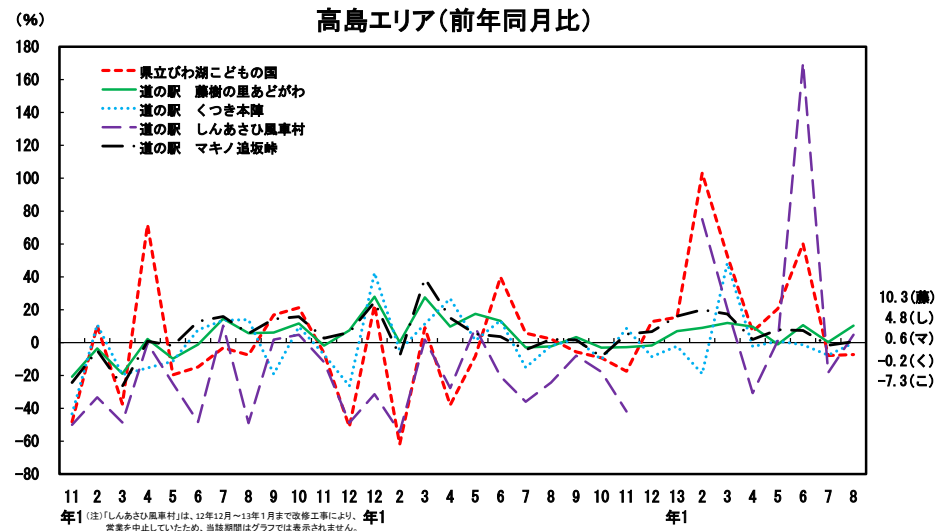
図37-⑤ 県内主要観光地の入込客数の推移  
湖北エリア(前年同月比)



【⑥高島エリア】

県立びわ湖こどもの国……………8月 33,167人 (同 - 7.3%)  
 道の駅：藤樹の里あどがわ……………8月 92,900人 (同 +10.3%)  
 // : くつき本陣……………8月 43,921人 (同 - 0.2%)  
 // : しんあさひ風車村……………8月 9,227人 (同 + 4.8%)  
 // : マキノ追坂峠……………8月 25,247人 (同 + 0.6%)

図37-⑥ 県内主要観光地の入込客数の推移  
高島エリア(前年同月比)





## 10. 地場産業の動向

### ①長浜縮緬業界：低調に推移

円安により生糸の仕入価格が前年対比で2倍以上に高騰しているが、価格転嫁できていない。25年9月の売上は前年実績を確保。ただし、生糸の仕入価格の上昇分を価格転嫁できていないため厳しい状態が続いている。

### ②信楽陶器業界：低調に推移

25年8月の売上は前年同月比2.3%増であったが、9月は台風18号の影響もあり同12.5%減と大きく減少した。台風18号により信楽地域は大きな被害を受け、復旧には相応の時間を要す。

平成2年に開館した滋賀県陶芸の森「信楽産業展示館」の入館者が9月15日に200万人に達し、記念セレモニーが行われた。また信楽産業展示館にて8月3日～9月23日まで「いまどき、しがらき、かやりき展」を開催された。（\*かやりき：蚊遣器。蚊取り線香用の灰皿。）

### ③彦根バルブ業界：低調に推移

滋賀バルブ協同組合によると、25年上期（1月～6月）のバルブ生産高は、前年同月比2.8%増の104億4,200万円となった。産業用は前年同月比6.6%増の52億3,000万円となっているが、円高による設備投資の見合わせ、世界経済の低迷、新興国の成長鈍化など厳しい実情にある。水道用は、各自治体の耐震化取組や上下水道部門でのインフラ劣年問題への取組強化により、前年同月比6.8%増の37億8,900万円となった。船用は昨年に続き造船所の新船受注残が大幅に減少していることを主要因として前年同月比10.4%減の10億9,500万円となった。鋳物素材は船舶用・一般産業用向けバルブの需要減により前年同月比31.8%減の3億2,800万円となった。

バルブ業界は依然と国内需要の低迷により厳しい状態が続いている。

### ④湖東麻織物業界：低調に推移

五個荘近江商人屋敷の外村宇兵衛邸と中江準五郎邸にて『昭和の暮らしを懐かしむ』をテーマに近江の麻展が7月3日から8月31日まで開催された。近江の麻展については毎年、近江商人屋敷にてテーマを決め開催されている。

### ⑤高島織物産地：低調に推移

糸値の価格は円安および中国の需要増加によえる値上がりは今夏に一服していたものの、ここにきて再度、上昇傾向となっている。軽布は一昨年の『ステテコブーム』が一段落し、在庫過剰による反動で今夏の稼働状況は低くなっている。

### ⑥甲賀町製薬業界：低調に推移

25年4月厚生労働省より「後発医薬品のさらなる使用促進のロードマップ」が公表された。新基準での数量シェアを30年3月末までに60%以上にする計画であり、ジェネリック医薬品メーカーにとっては売上増加の追い風が見込まれる。大手製薬会社からの受託加工については、安定的に受注を確保している。

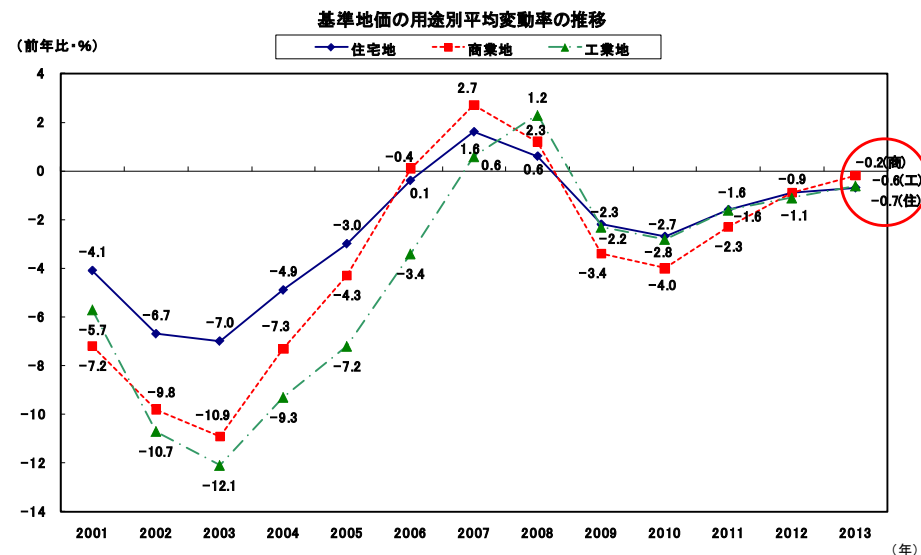
## 《トピックス》

### 【「2013年地価調査」による県内地価動向】

－5年連続の下落だが、下げ幅は3年連続で縮小－

(「基準地価」：7月1日現在、県内381地点の基準地の1㎡当たりの価格)

- ◆全用途(林地を除く)の平均価格変動率は前年比-0.5%となり、5年連続で下落したものの、下げ幅は3年連続で縮小した(-1.8%→-1.0%→-0.5%)。
- ◆住宅地の平均価格は46,200円/㎡、前年比-0.7%で5年連続のマイナス(-2.2%→-2.7%→-1.6%→-0.9%→-0.7%)。しかし、上昇地点数は前年13地点から37地点、横ばいも19地点から21地点に増えた。地域別では、草津市が+1.3%、守山市が+0.5%と前年の横ばい(ともに0.0%)からプラスに転じたが、その他のすべての市町では引き続きマイナス。
- ◆商業地は84,500円/㎡、同-0.2%で、これも5年連続のマイナス(-3.4%→-4.0%→-2.3%→-0.9%→-0.2%)。上昇地点数は前年の11地点から27地点に増えた。地域別では、昨年から上昇に転じた大津市が+1.4%(前年+0.2%)、草津市が+2.1%(同+1.5%)となったのに加え、守山市が+1.4%(同-0.4%)、栗東市が+0.6%(同-0.2%)とプラスになったが、他の市町ではマイナス。
- ◆工業地は25,400円/㎡、同-0.6%で、同様に5年連続のマイナス(-2.3%→-2.8%→-1.6%→-1.1%→-0.6%)。前年からの継続地点20地点のうち上昇地点はなかったものの、横ばいが前年の2地点から12地点となり、全体の半数以上となった。地域別では、栗東市が前年に続き横ばい(0.0%)となっているのに加え、大津市(前年-0.6%)、草津市(同-0.4%)、守山市(同-1.8%)、甲賀市(同-0.3%)、野洲市(同-1.3%)、湖南市(同-0.8%)、東近江市(同-1.1%)がマイナスから横ばい(0.0%)に転じた。今後の動向が注目される。



#### 《県内の価格上位5》(1㎡当たりの価格)

◆住宅地	(価格)	(上昇率)	(前年順位)
①大津市一里山3-24-26	13.8万円	+3.0%	①
②大津市大將軍3-4-7	12.8万円	+2.4%	②
〃大津市朝日が丘1-14-1	12.8万円	+2.4%	②
④大津市石場2-8	12.3万円	+3.4%	⑥
⑤大津市中庄2-20-13	12.2万円	+1.7%	④
◆商業地	(価格)	(上昇率)	(前年順位)
①大津市梅林1-3-24	30.0万円	+3.4%	①
②大津市馬場1丁目里中64-6外	23.6万円	+1.7%	②
③草津市西大路町6-6	22.2万円	+3.3%	③
④草津市野路1-6-5	22.1万円	+4.2%	④
⑤大津市におの浜4-7-5	16.7万円	+2.5%	⑤

《ご参考①：国内景気の動向》 (25年9月13日：内閣府)

月例経済報告

平成25年9月

総論

(我が国経済の基調判断)

景気は、緩やかに回復しつつある。

- ・輸出は、このところ持ち直しの動きが緩やかになっている。生産は、緩やかに増加している。
- ・企業収益は、大企業を中心に改善している。設備投資は、非製造業を中心に持ち直しの動きがみられる。
- ・企業の業況判断は、改善している。
- ・雇用情勢は、改善している。
- ・個人消費は、持ち直し傾向にある。
- ・物価の動向を総合してみると、デフレ状況ではなくなりつつある。

先行きについては、輸出が持ち直し、各種政策の効果が発現するなかで、家計所得や投資の増加傾向が続き、景気回復の動きが確かなものとなることが期待される。ただし、海外景気の下振れが、引き続き我が国の景気を下押しするリスクとなっている。

(政策の基本的態度)

政府は、大震災からの復興を加速させるとともに、デフレからの早期脱却と経済再生の実現に向けて全力で取り組む。このため、「経済財政運営と改革の基本方針」に基づき経済財政運営を進めるとともに、「日本再興戦略」の実行を加速化し、強化する。

日本銀行には、2%の物価安定目標をできるだけ早期に実現することを期待する。

【参考】先月からの主要変更点

	8月月例	9月月例
基調判断	<p>景気は、着実に持ち直しており、自律的回復に向けた動きもみられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輸出は、持ち直しの動きがみられる。</li> <li>・生産は、緩やかに増加している。</li> <li>・企業収益は、製造業を中心に改善している。設備投資は、おおむね下げ止まっており、一部に持ち直しの動きもみられる。</li> <li>・企業の業況判断は、改善している。</li> <li>・雇用情勢は、改善している。</li> <li>・個人消費は、持ち直している。</li> <li>・物価の動向を総合してみると、デフレ状況ではなくなりつつある。</li> </ul> <p>先行きについては、輸出が持ち直し、各種政策の効果が発現するなかで、企業収益の改善が家計所得や投資の増加につながり、景気回復へ向かうことが期待される。ただし、海外景気の下振れが、引き続き我が国の景気を下押しするリスクとなっている。</p>	<p>景気は、緩やかに回復しつつある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輸出は、このところ持ち直しの動きが緩やかになっている。</li> <li>・生産は、緩やかに増加している。</li> <li>・企業収益は、大企業を中心に改善している。設備投資は、非製造業を中心に持ち直しの動きがみられる。</li> <li>・企業の業況判断は、改善している。</li> <li>・雇用情勢は、改善している。</li> <li>・個人消費は、持ち直し傾向にある。</li> <li>・物価の動向を総合してみると、デフレ状況ではなくなりつつある。</li> </ul> <p>先行きについては、輸出が持ち直し、各種政策の効果が発現するなかで、家計所得や投資の増加傾向が続き、景気回復の動きが確かなものとなることが期待される。ただし、海外景気の下振れが、引き続き我が国の景気を下押しするリスクとなっている。</p>
政策態度	<p>政府は、大震災からの復興を加速させるとともに、デフレからの早期脱却と経済再生の実現に向けて全力で取り組む。このため、「経済財政運営と改革の基本方針」に基づき経済財政運営を進めるとともに、「日本再興戦略」を着実に実施する。</p> <p>日本銀行には、2%の物価安定目標をできるだけ早期に実現することを期待する。</p>	<p>政府は、大震災からの復興を加速させるとともに、デフレからの早期脱却と経済再生の実現に向けて全力で取り組む。このため、「経済財政運営と改革の基本方針」に基づき経済財政運営を進めるとともに、「日本再興戦略」の実行を加速化し、強化する。</p> <p>日本銀行には、2%の物価安定目標をできるだけ早期に実現することを期待する。</p>

	8月月例	9月月例
個人消費	持ち直している。	持ち直し傾向にある。
設備投資	おおむね下げ止まっており、一部に持ち直しの動きもみられる。	非製造業を中心に持ち直しの動きがみられる。
輸出	持ち直しの動きがみられる。	このところ持ち直しの動きが緩やかになっている。
貿易・サービス収支	赤字は、減少傾向となっている。	赤字は、おおむね横ばいとなっている。
企業収益	製造業を中心に改善している。	大企業を中心に改善している。
消費者物価	このところエネルギーを中心に上昇しており、それを除いた基調としては横ばいとなっている。	エネルギーを中心に上昇しており、それを除いた基調としても底堅さがみられる。

(注) 下線部は先月から変更した部分。

## 《ご参考②：京滋の景気動向》(2013.10.8)



管内金融経済概況  
< 2013年10月8日 >  
日本銀行 京都支店  
京都市中京区河原町通二条下ル一之船入町535  
TEL : 075-212-5151 FAX : 075-253-2014  
http://www3.boj.or.jp/kyoto

### 概況

京都府・滋賀県の景気は、緩やかに回復しつつある。

個人消費は、底堅い動きになっている。設備投資は、下げ止まっており、持ち直しに向かう動きがみられる。住宅投資は、増加傾向にある。公共投資は、増加している。生産・輸出は、緩やかに増加している。雇用・所得環境は、なお厳しい状態が続いているものの、緩やかに改善している。

企業の業況感は、製造業を中心に改善している。

### 管内金融経済概況 早見表 (矢印は前回公表からの変化)



### 《当報告書のご利用についての注意事項》

- 当報告書は情報提供のみを唯一の目的として作成されたものであり、何らかの金融商品の取引勧誘を目的としたものではありません。
- 当報告書は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行並びに当社はその正確性を保証するものではありません。内容は、予告なしに変更することがありますので、予めご了承ください。
- また、本報告書は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。
- なお、本報告書の内容に関するご照会は下記の担当者までご連絡ください。

照会先：(株)しがぎん経済文化センター（経済リサーチ部：志賀）  
TEL：077-526-0005 E-mail：[keizai@keibun.co.jp](mailto:keizai@keibun.co.jp)

以上